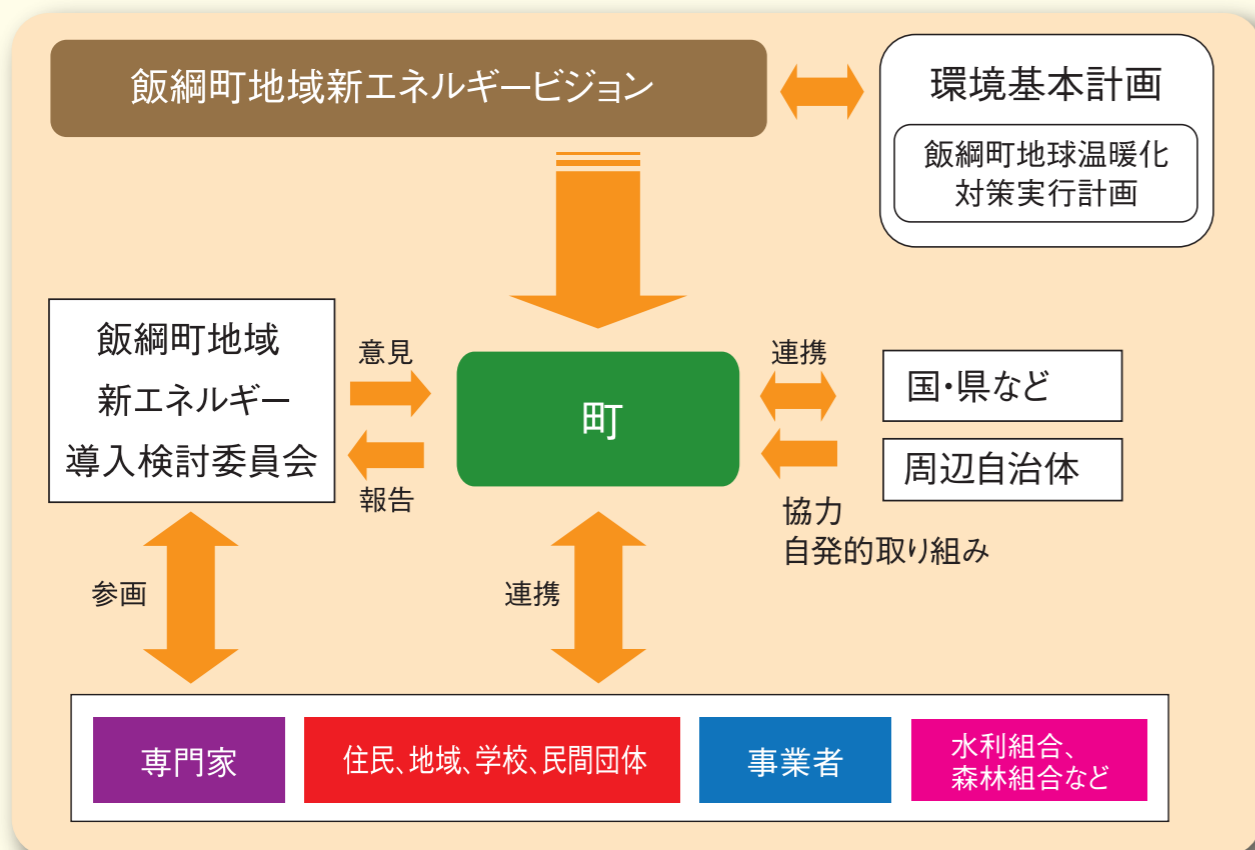


推進体制

新エネルギーの導入には、町をはじめ町民・事業者及び地域の協力・取り組みが不可欠です。また、新エネルギーの普及には専門的見地が重要になってくることから、町・町民・事業者・民間団体などが参加する「飯綱町地域新エネルギー導入検討委員会」と連携しながら取り組んでいきます。



概要版

飯綱町 地域新エネルギービジョン (中間見直し)

太陽や風などの自然の力や今まで使われていなかった資源を活用して、電気・熱・燃料などを作り出すことができるエネルギーです。石油などの化石燃料と比べ温室効果ガスの排出を削減できるため、地球温暖化防止に効果があり、自然環境にやさしいエネルギーで、「新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法」では10種類が指定されています。

新エネルギーとは

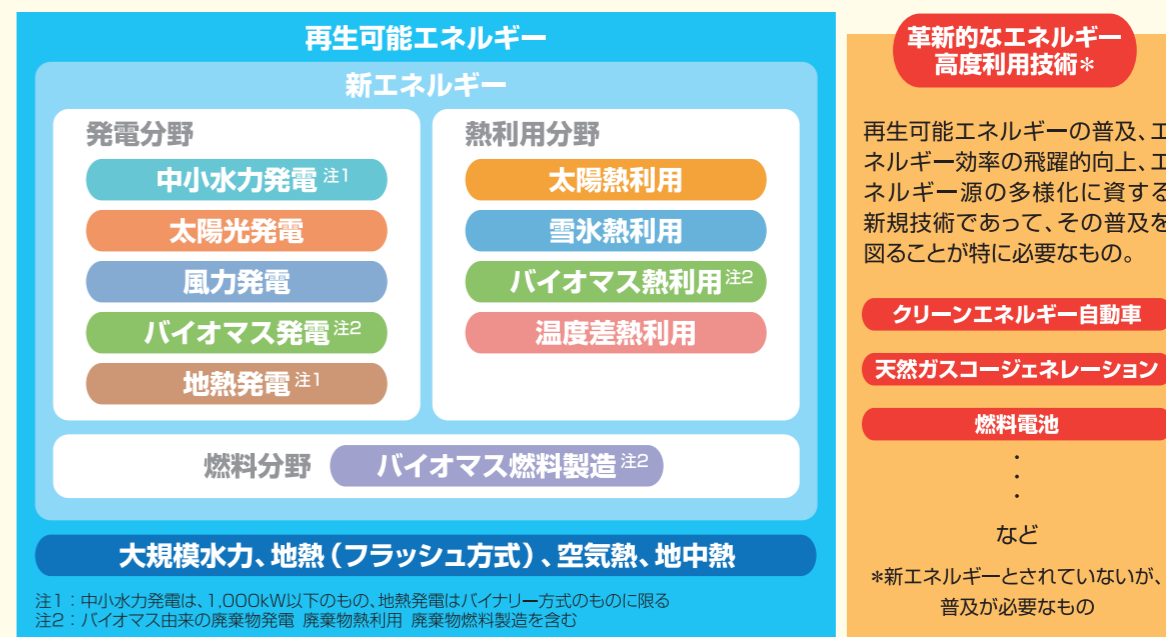


図 新エネルギーの位置づけ

出典：資源エネルギー庁パンフレット「わかる新エネ」より作成

新エネルギー等導入状況

地域新エネルギービジョン策定後における、町内の新エネルギー導入状況は次のとおりです。

横手農産物直売所の太陽光発電

- ◆種別：太陽光発電
- ◆導入時期：2014(平成26)年8月
- ◆出力：10.0kW
- ◆利用形態：電力



さみずっ子保育園の地中熱利用

- ◆種別：地中熱利用
- ◆導入時期：2016(平成28)年10月
- ◆出力：150kW (冷暖房120kW、融雪30kW)
- ◆利用形態：冷暖房、融雪



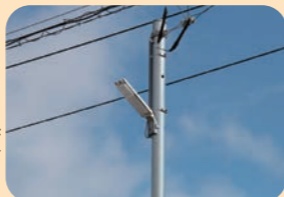
クリーンエネルギー自動車

- ◆導入時期：2014(平成26)年度～2017(平成29)年度
- ◆導入台数：5台 (消防指令車、町長車、病院公用車、役場公用車)



全町の防犯灯をLED化

- ◆種別：LED防犯灯
- ◆導入時期：2014(平成26)年度～2015(平成27)年度
- ◆導入状況：町内の防犯灯1,948本



飯綱町で活用できる新エネルギーとは

新エネルギーは、地域の資源であることからその調査を行いました。町で活用できる新エネルギーは『太陽光発電・太陽熱利用』、『中小水力発電』、『バイオマス熱利用』、『雪氷熱利用』の4つのエネルギーです。

太陽光発電・太陽熱利用

長野県は全国的にみても日射量が大きい地域であり、季節や天候で変動しますが町もその地域に入ることから、太陽光発電や太陽熱利用に取り組むことが可能です。また、住宅で発電した電気は、自宅で消費したあとの余剰分が買い取りの対象となることから実現性の高いエネルギーといえます。



バイオマス熱利用

町の面積の約半分は森林であるため、森林整備における間伐材などの利用は有効な手段です。さらに、果樹(りんご)栽培が盛んなことから、その剪定枝の利用も他の地域と比べ差別化が図られる注目すべきバイオマスです。これらを利用してバイオマス熱利用を行うことは可能であり、実現性の高いエネルギーといえます。



中小水力発電

町には一級河川4本を含め大小14本の河川と58本の農業用水があり、水資源は豊富にあります。この資源を活用して水力発電は可能ですが、大きな発電を期待するには、適度な水量と落差が重要となります。県内でも先進事例があり、事業の採算性が高く有望な新エネルギーであり、実現性の高いエネルギーといえます。



雪氷熱利用

町は、県の北部に位置することから一日の最大降雪量が40cmを超える時があり、雪の多い地域です。今、この雪を利用して農産物を貯蔵した雪むろの実証実験を行っていることから、これらの雪の有効活用が可能です。



問い合わせ先 飯綱町 企画課 企画係

TEL:026-253-2511 FAX:026-253-5055 E-mail:kikaku@town.iizuna.nagano.jp

目的と背景

近年、快適さ、便利さを求めるライフスタイルへの変化により、日常生活は大量のエネルギーを消費しています。その結果、それにより引き起こされている地球温暖化（二酸化炭素やメタン、水蒸気などの温室効果ガスが増加し地球の温度が上昇すること）が一つの要因で異常気象（台風の大型化、干ばつや大雨など）による災害が各地で多発しているのも現実です。

エネルギーを生み出すための資源（石油や石炭などの化石燃料）には限りがあり、地球の温暖化を防ぐためにも、節約しながら大事に使うとともにその代わりとなるエネルギーも考えなくてはなりません。

こうした背景から、町では新エネルギーの導入を推進するため、平成25年に、『飯綱町地域新エネルギービジョン』を策定しました。また、中間年次にあたる平成30年には、社会情勢の変化や、新たなニーズをふまえ、導入目標や政策等について、一部見直しを行いました。

基本方針

方針1 まちの新エネルギーを身近にします

公共施設への率先的な導入やまちづくりへの積極的な活用に向け、新エネルギーを身近なものにします。

住民や事業者へ実際の導入までに役立つ情報の提供を行います。

方針2 地域資源である新エネルギーを有効活用します

住民・事業者が実際の導入までには様々な課題があることから、新エネルギーを普及していくための優遇策の整備と必要な情報の提供に努めます。

方針3 新エネルギー導入により、環境にやさしいまち、災害に強いまちを目指します

新エネルギーの導入により自然と人との共生と調和、健全で豊かな自然の恵みを次世代に継承し、より安全・安心な暮らしが実現するような基盤の構築を進めます。

導入目標

目標年次は2023年とし、新エネルギーの導入の目標は次のとおりです。

また、社会情勢の変化やニーズ等をふまえ、中間年次（5年：2018(平成30)年）に目標の見直しを行いました。本目標の達成を目指し、新エネルギーの活用を推進していきます。

新エネルギー種類※1	導入目標 2023年	
	住宅	公共施設
太陽光発電※2	140戸	5件
バイオマス熱利用	—	4件
雪氷熱利用	—	2件
クリーンエネルギー自動車	—	6台

※1 既に導入している地中熱利用については、目標値には掲げないが、導入を妨げるものではない。

※2 太陽光発電は、公共施設50kW、住宅が690kWを目標値とする。（公共施設：10kW/件 住宅：5kW程度/戸として算出。）

町で取り組む新エネルギーのプロジェクト

町では3つのプロジェクトに大別して取り組んでいきます。公共施設等には積極的に新エネルギーを導入し、町民・事業者へ普及啓発を図りながら、町全体で新エネルギーの推進を図ります。

導入推進プロジェクト

(技術的に確立されており、導入を進めるプロジェクト)

実証実験プロジェクト

(実証実験等を行いながら、実用化に向けて検討を進めるプロジェクト)

公共施設等への新エネルギー導入プロジェクト

公共施設への太陽光発電システムの導入

町では、飯綱中学校、りんごっ子保育園に太陽光発電システムを導入していますが、今後も太陽エネルギーを利用した公共施設への発電システムの設置、利用の普及を図ります。

また、民間資金の導入を検討します。



公用車へのクリーンエネルギー自動車の導入

町で利用している公用車にハイブリッド自動車などのクリーンエネルギー自動車の導入に取り組みます。



雪むろ整備による雪氷熱の導入検討

地域の特性を活かし、雪むろ整備による雪氷熱利用の実証実験から、今後も雪の有効な活用方法を検討します。

雪むろに貯蔵することで農産物に付加価値をつけ、ブランド化や差別化を図り、町内の農産物の流通を活性化させます。



公共施設への木質バイオマス燃料の導入検討

公共施設へのペレットストーブの普及を図り、暖房効果の検証や普及啓発等の実証実験を行います。

また、ペレットボイラを導入し、CO₂削減効果、地域で発生する剪定枝の活用方法などを検討します。



民間への支援制度導入プロジェクト

住宅用太陽光発電システム設置助成金の継続・拡充

住宅用太陽光発電設備に対する助成制度の導入状況を把握し、継続と拡充について、積極的に検討します。



新エネルギー等普及啓発プロジェクト

普及啓発プログラムの実施

地域の新エネルギー導入に向けた意識づくりを支援します。

環境・エネルギー問題や町の取り組みに対する町民の意識の向上を図られます。



新エネルギービジョンでは、上記のプロジェクトのほか、「小水力発電による獣害防止柵のモデル整備」、「豊かな水量を活用した小水力発電導入検討」、「多様な手法による太陽光発電の導入検討」なども位置づけています。これらは、今後の技術開発や、関係者の気運の高まりなどにより施策を具体化していきます。